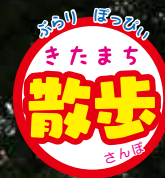


北海道酪農の発展を支えた文化財

# 北海道大学農学部第2農場



今夏、予定されていたオリムピックのマラソンコースの一部にもなっている北海道大学。その中に、北海道酪農の発展に貢献した「北海道大学農学部第2農場」があることをご存じでしょうか。

一戸の酪農家をイメージした模範農場として建設され（現在地には明治42〜大正元年に移設）、当時は常時100頭前後の畜牛を飼育し、飼料作物の栽培も行われていました。

乳牛などの畜産経営がなかった当時の北海道に、近代的な欧米の技術を導入しました。昭和44年には、日本畜産の一発祥地であること、かつ特殊な建築構造としての価値が認められ、国の重要文化財の指定を受けました。

建築から100年以上が経過した今もなお残る、ゆったりとしたたたずまいは景観的にも優れ、多くの人々に親しまれています。



乗用トラクタ（下写真）をはじめ、明治初期に欧米から輸入された農業機械や日本全国の鋤など、歴史上貴重な農業機械が収められている。



模範家畜房（モデルバーン）の壁面には牛の彫刻が施されている。現存最古の石造円筒形サイロ（札幌軟石製）も見られる。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一般公開を休止している場合があります。ホームページをご確認ください。



所在地 北区北18条西8丁目  
 アクセス 地下鉄南北線「北18条駅」徒歩8分  
 休館日 毎月第4日曜日  
 公開時間 8:30～17:00（屋外）  
 10:00～16:00（屋内）  
 入場料 無料  
 駐車場 なし  
 [詳細] 北海道大学総合博物館 ☎706-2658  
 ※屋内・屋外とも一般公開休止中（6月21日現在）



広告